

審議会での議論の流れ／策定に関する各作業の流れ

第1回振興審議会(3/29、委員 15名)

1. 総合計画に関する意見交換
  - ◆各委員からの主な提言・意見等
    - ・幸せに暮らせるまちは安心して老後まで暮らせるというイメージ。高齢者の交流の場づくりなども必要。
    - ・まちづくり基本条例に示している市民参加や情報公開、評価の仕組みを第五次総合計画にも盛り込むべき。
    - ・災害時、行政はすぐには役に立たない。助けられるのは近所の人。コミュニティの絆があるのは長井の良さ。人が減ってもコミュニティを維持する策を展開してほしい。
  - ⇒【対応】委員の意見を参考に、策定作業を進めていく。

第2回振興審議会(6/28、委員 16名)

1. 第四次総合計画の総括方法について
  - ◆各委員からの主な提言・意見等
    - ・施策による成果を変化のストーリーとして見せながら、わかりやすい総括として示すべき。図表等の活用も必要。
    - ・四次総の大きなテーマであった「需要の拡大」と「雇用の創出」が果たしているのかを検証してほしい。
    - ・もう一つの大きなテーマである「協働」については、今後も大事な視点。その評価も総括に盛り込んでほしい。
  - ⇒【対応】各意見を参考に作成を進めた。
2. 第五次総合計画の策定手順について
  - 事務局が提示した内容で了承。
3. 市民意向調査の設計について
  - ◆各委員からの主な提言・意見等
    - ・回答率を良くするため、表紙に「どうして総合計画が必要なのか」がわかるような記載を追加して、わかりやすくしてほしい。
    - ・施策の満足度の問いは、「〇〇の振興」という項目だけでなく、事業内容も載せたほうがわかりやすい。
    - ・調査の対象から外れる 18歳くらいの人たちの意見も聴取すべき。
  - ⇒【対応】委員の意見を参考に調査票を作成し、意向調査を実施した。

第1回専門部会(8/27~9/3)  
第2回専門部会(10/17~10/24)

- ◆委員が、【総務】【厚生】【文教】【産業・建設部門】の各専門部会に分かれて、以下の項目について議論を行った。
1. 第四次総合計画の総括(中間まとめ)／第五次総合計画に必要な視点について
  2. 市民意向調査の結果について
  3. 第五次総合計画の骨格案について
    - 意見等については、裏面に記載。
- ⇒【対応】意見等を踏まえて、総括や骨格案の作成を行った。

第3回審議会(12/20、委員 13名)

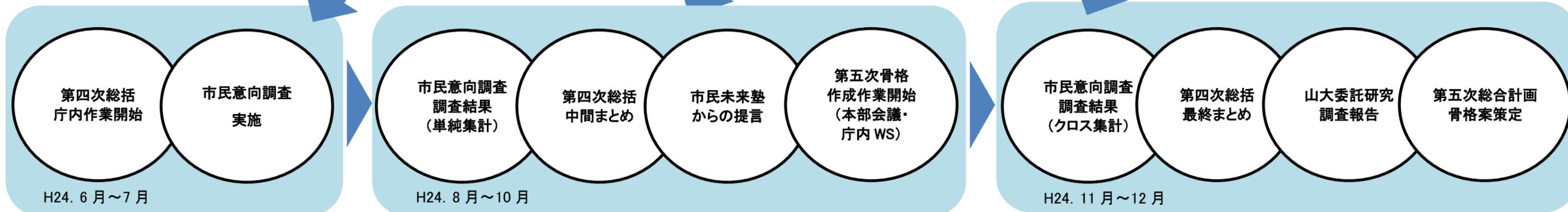
1. 第四次総合計画の総括について
  - 事務局が提示した内容で了承。
2. 市民意向調査の結果について
  - 追加の意見等はなし。
3. 第五次総合計画 骨格(案)について
  - ◆各委員からの主な提言・意見等
    - ・若年無業者への職業訓練等の教育機会が必要。
    - ・レインボープランを地域循環経済に活かし、需要拡大と雇用創出を図るべき。農産物のブランド化は重要課題。行政の関わりも大事。
    - ・地域を経営するという議論を今後も深める必要がある。
    - ・この段階では、具体的な方向性が示せておらず、市民にとってわかりにくい。
  - ⇒【対応】今後、各地区・各団体等への説明会、中高生の意向調査などを行い、市民の意見を広く聞き、具体的な施策の方向性を検討していく。

(会長講話要旨)

- グローバル化により、地域産業の空洞化や農業の衰退等が生じている。
- 地方はグローバル化に対応した「新しいローカルズム」で対抗していく必要がある。  
※新しいローカルズムの4要素 <・地域循環型経済・内発的発展・地域主義・コミュニティ>
- 総合計画にもローカルズムの観点を組み込み、市民参加に基づく地域の自立の計画へ。

第五次総合計画  
骨格案  
(資料3)

H25. 1月



**【総務部門】**

○第四次総合計画の総括(中間まとめ)／第五次総合計画に必要な視点について

◆各委員からの主な提言・意見等

- ・パブリックコメントや HP などの ICT は便利だが、頼りすぎると良くない。意見が行政に届くことが市民の出発点。市民も行政まかせになってはいけない。
- ・地区長の役割は大変だが、女性地区長がいないのは残念。女性からの提言をどう促すかが課題。起業家は女性が多い。女性の起業支援も必要。
- ・市外との交流は雇用に関わる。市長が交流事業で市外に行ったら、営業活動をして、商工面での雇用につなげることもできる。
- ・レインボープランは株式会社化が必要。そして、地域経済循環の核の一つとすべき。
- ・地域経済循環をしっかりとやらないと地方はつぶれる。地域のリーダー育成やビジネスができる人材育成が必要。
- ・市職員が勤務以外の時間も使って自分で考えた施策を市長に提言できるようになってもらいたい。
- ・市 HP への情報掲載が減っている。行政と市民との情報共有を第五次で重要視してはどうか。

○市民意向調査の結果について

- ・回収率 45.6%は、半分以上の人が意見表明をしていないことになる。その人たちの意見を聞く手立ても必要。

○第五次総合計画の骨格案について

- ・問題は雇用。行政ではなく、民間で拡大することが必要。団塊世代が退職し、お金がある高齢者が増える。その人たちに起業してもらい。行政はそれを支援する。
- ・長井は企業城下町という歴史的な背景から、起業マインドに乏しい。しかし、喫緊の課題。土地所有者と土地を活用したい人をつなげるような仕組みが必要。
- ・最重要課題として、高齢者の視点が欠けている。老後の住みよさも大事。
- ・長井の地域資源としての「人の魅力」も重要。人は財産であり、育てるための投資も必要。「魅力づくり」には人についてもいれてもらいたい。
- ・協働のためには、市が持つ情報を開示していくオープンガバナンスの考え方が必要。

**【文教部門】**

○第四次総合計画の総括(中間まとめ)／第五次総合計画に必要な視点について

◆各委員からの主な提言・意見等

- ・「地区公民館で様々な事業を展開している」とあるが、具体的な人数を示してほしい。
- ・南陽市の花公園のような子どもが思いきり遊べる公園や施設が必要。
- ・文化会館の老朽化は深刻な問題。新築と修繕のどちらで考えているのか。
- ・街路事業に伴う工事で、文化財の流出が懸念。文化財保護や保存の方法も一体で考えてほしい。
- ・いろんな課題は子どもが少ないこと、若い人の社会への関心が低下していることが要因。子どものことをもっと考えていくべき。
- ・公共施設の老朽化への対応が必要。公共施設に関する全体の計画をぜひ考えてほしい。
- ・市 HP はイベント情報等の知りたい情報を見つけるのが大変。検索しやすい形だと見る人も増える。
- ・地区公民館のコミュセン化は、市民にとっては公民館とコミュセンの違いがわからず、なんとも言えない。

○第五次総合計画の骨格案について

- ・市民の多くは大企業に来てほしいと思っているが、そんな時代ではない。特効薬はない。
- ・雇用を作るのが困難なら、今ある雇用を維持することが大事。利益を上げ、雇用を少しずつ増やす機運が高まればいい。
- ・雇用は工業に限らず、商業の大規模店舗なども考えていけばいいのではないかな。
- ・農業をやりたい人がいたとしても、ハードルが高い。補助金だけでなく、やりたい人と農地所有者とのマッチングや農業を教えてくれる人がいることによって、新規就農者を育成するのが大事。

**【厚生部門】**

○第四次総合計画の総括(中間まとめ)／第五次総合計画に必要な視点について

◆各委員からの主な提言・意見等

- ・50代の肥満が増えていることについては、スポーツや子どもの頃からの食事の習慣が大切。
- ・健診の受診率をあげることが寿命を延ばし、人口減少も抑えられる。45%の目標が達成できていないということだが、理由は様々だと思う。工夫はしていると思うが、市民が受けない理由を市に一言連絡するようになれば理由がわかり、受診率の改善にもつながるのではないかな。
- ・がんは死亡原因第一位。若い人ほど進行が速いため、検診が大事。案内や補助の工夫が必要。また、不妊治療に対する施策は人口問題にもつながる。相談窓口などを検討してほしい。
- ・安全安心のため、消火栓や防犯灯の設置にきめ細やかな対応が引き続き必要。
- ・レインボープランは施設の老朽化が問題。施設の見直しなどしながら、レインボー野菜の消費拡大など同プランを中心にした長井の売り込みができるようにしていくべき。

○市民意向調査の結果について

- ・若い世代の回答率が低い。中高生に「どんなまちになったら住みたいか」を聞き取りしてはどうか。
- ・20代、30代の人々の意見も大事。その世代の意見が知りたい。
- ・子育て支援については「まあ満足」「やや不満」がほぼ同数。いろんな理由で意見として出してくれているはず。中身を分析してほしい。

○第五次総合計画の骨格案について

- ・高齢者の観点が不足。高齢者の居場所づくりに力をいれてはどうか。
- ・お年寄りと一緒に活動できる場があれば、両世代にとって良い。

**【産業・建設部門】**

○第四次総合計画の総括(中間まとめ)／第五次総合計画に必要な視点について

◆各委員からの主な提言・意見等

- ・コメ離れが進む中で、長井の行先(目標)はどこかがはっきり見えない。
- ・もっと長井の農産物を市民が食べられる取り組みも必要。
- ・統計データを示すならば、単年度の数値だけでなく、推移があるといい。
- ・今後の方向性に「県立工業団地」とあるが、来る企業はあるのか。
- ・製造業は行政に頼っていない。行政ができることは限られるが、電力問題などはもっと頑張ってほしい。
- ・かわと道の駅は、タスなどの現在の資源と相乗効果を出せるような整備が必要ではないかな。
- ・観光は、長井は良いものがたくさんあるが、これというものが無い。観光は観る、食べる、買うが主な要素。それを一か所で満たせれば、訪問した人がお金を使ってくれるしかけが作れる。
- ・フラワー長井線の改善には、行政と会社の協力や役割分担が必要。
- ・第四次にあった「長井の心」は素晴らしい。人間の原点のようなものを感じた。学校教育だけでなく、これからは家庭や地域へ広めていくべきだと思う。

○第五次総合計画の骨格案について

- ・形骸化しないために、という視点は大事。形骸化しないためには、目標をもっと絞るべきではないかな。
- ・骨格案は、市民意向調査の結果と一致している。
- ・雇用創出を行政ができるのか疑問。行政ができることには限界がある。意向調査で雇用の不満が多いのは、行政への期待というよりは個人的な不満ではないかな。
- ・雇用が最優先課題であれば、やる前から効果・結果に囚われるのではなく、次々と手を打つしかない。新しい企業は3年で8割がなくなる。うまくいかないことも多い。議論ばかりしていても仕方ない。